

## 赤い薔薇やスの伝説

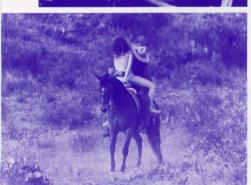
ティタそのものが薔薇ソースの風味に溶け込み、 それを食べたペドロの体の中に侵入した。 お互い手も触れず、料理を通して性的に出会ったのだ……。

料理で愛を伝える、恋を禁じられた女性の数奇な運命を現実と幻想を交錯させて描く大河ロマンス『赤い薔薇ソースの伝説』(90年度メキシコNo.1ベストセラー)を、現代メキシコ映画界を代表する監督アルフォンソ・アラウが映画化。本作は、昨年度のメキシコ・アカデミー作品賞ほか主要10部門を独占し、メキシコ映画史上最高の興行記録を樹立。また世界各国の映画祭でも大絶賛を浴び、多くの賞に輝いている。

舞台は1910年、革命の嵐が吹き荒れるメキシコ。末娘は年老いていく母の世話をしなければいけないというしきたりのため、ティタは恋人ペドロとの結婚を禁じられる。あきらめきれないペドロは少しでも彼女の側で過ごしたいために、ティタの姉ロサウラと結婚する。同じ家の中で、母の厳しい監視の下、ティタは彼への愛の言葉も禁じられ、その熱い想いを得意の料理に込める。すると不思議なことに、彼女が恋心を抱いて料理すれば、それを食べるものがすべて恋におち、哀しみを胸中に秘めて料理すれば、皆が涙した。ティタは、料理をとおしてペドロと愛の交信をすることができたのだ。しかし、激しい運命の流れは、二人を容赦なく飲み込んでしまう。ティタとペドロの20年以上にも及ぶ純粋な恋は、一体どこに行き着くのか……。







この「赤い薔薇ソースの伝説」で、料理は大変重要なモチーフである。恋人に愛を込めて料理を作り、それを通して恋人の体の中に侵入し、お互い手も触れずに性的に出会うシーンは、エロティシズムの極致とも言える。女性が料理を作り、それを愛する人に食べさせるという行為に潜む官能性を克明に描いている。食べること以上に、作ることの重要性を語っているという意味で、この映画は単なるグルメ映画ではない。

この作品の原作者であり、脚本家でもあるラウラ・エスキベルの処女小説『赤い薔薇ソースの伝説』は、ラテンアメリカ文学特有の魔術的リアリズムと言われる、現実と幻想を交錯させて描く手法で不思議な世界を展開させるが、決して難解なものではなく、むしろティタとペドロのすれ違いの恋は、レディースコミックやトレンディドラマの趣きに共通するものがある。その親しみやすさが、メキシコ本国のみならず、昨年アメリカでも出版されるや、全米各都市でトップランキングされるほど、人々に愛されたのである。

原作・脚本のラウラ・エスキベルの夫であるアルフォンソ・アラウ監督は、ペキンパーの「ワイルドバンチ」やホドロフスキーの「エル・トポ」などで俳優としても有名。ティタ役のルミ・カバソス、ペドロ役の「ニューシネマパラダイス」のイタリア人俳優マルコ・レオナルディら若手俳優と共に、メキシコ映画界きっての実力派女優レヒーナ・トルネ、ブニュエルの「ナサリン」にも出演したことのあるアダ・カラスコらベテラン俳優らが熱演している。

上映時間:1時間56分

製作・監督:アルフォンソ・アラウ/原作・脚本:ラウラ・エスキベルルミ・カバソス/マルコ・レオナルディ/レヒーナ・トルネ/ヤレリ・アリスメンディ1992年/メキシコ映画/提供:テレビ東京、日本ヘラルド映画、デラ・コーポレーション/配給:日本ヘラルド映画

## 6月12日 (待望の)

BLA・東宝映画街 **20**3(3591)1511 シャンテ シネ 1

前売鑑賞券1400円好評発売中// 日曜 10:15 平日 12:30 2: (特製レシピカード付・劇場窓口のみ)